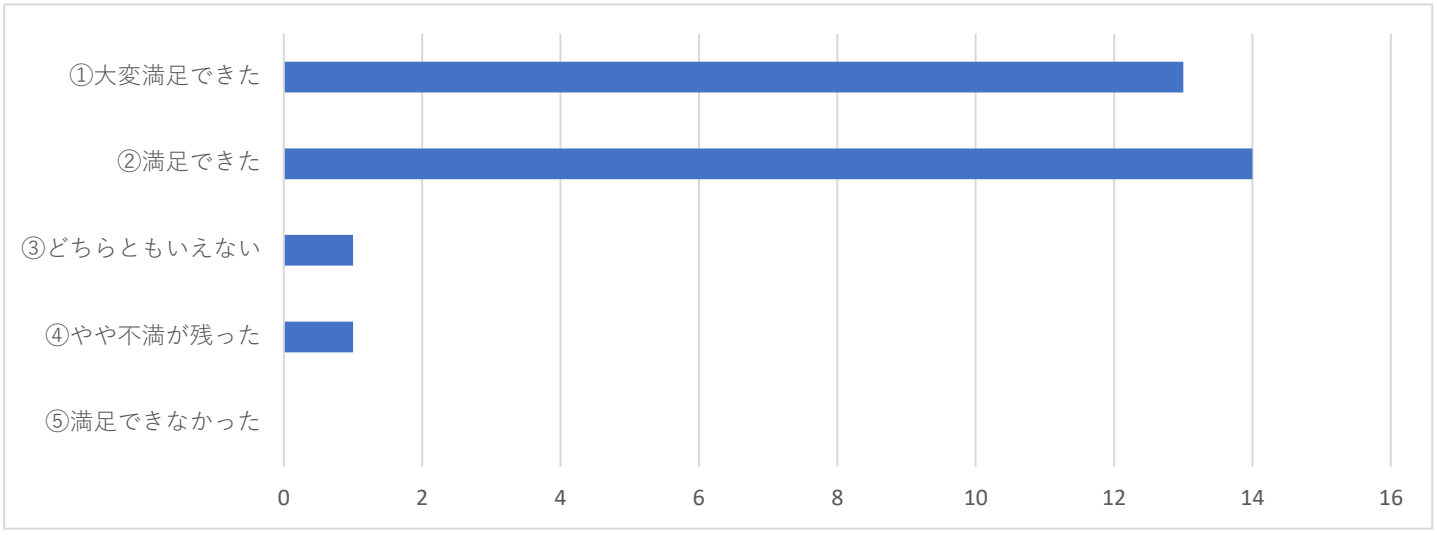
令和6年度 能登半島地震復興支援セミナー 第1回 アンケート

【日時】令和６年６月８日(土) １４時００分～１５時３０分
【開催】対面・オンライン
【タイトル】創造的人間復興
【講師】澤 信俊　金沢星稜大学 名誉教授
【座長】新 広昭　金沢星稜大学 教授

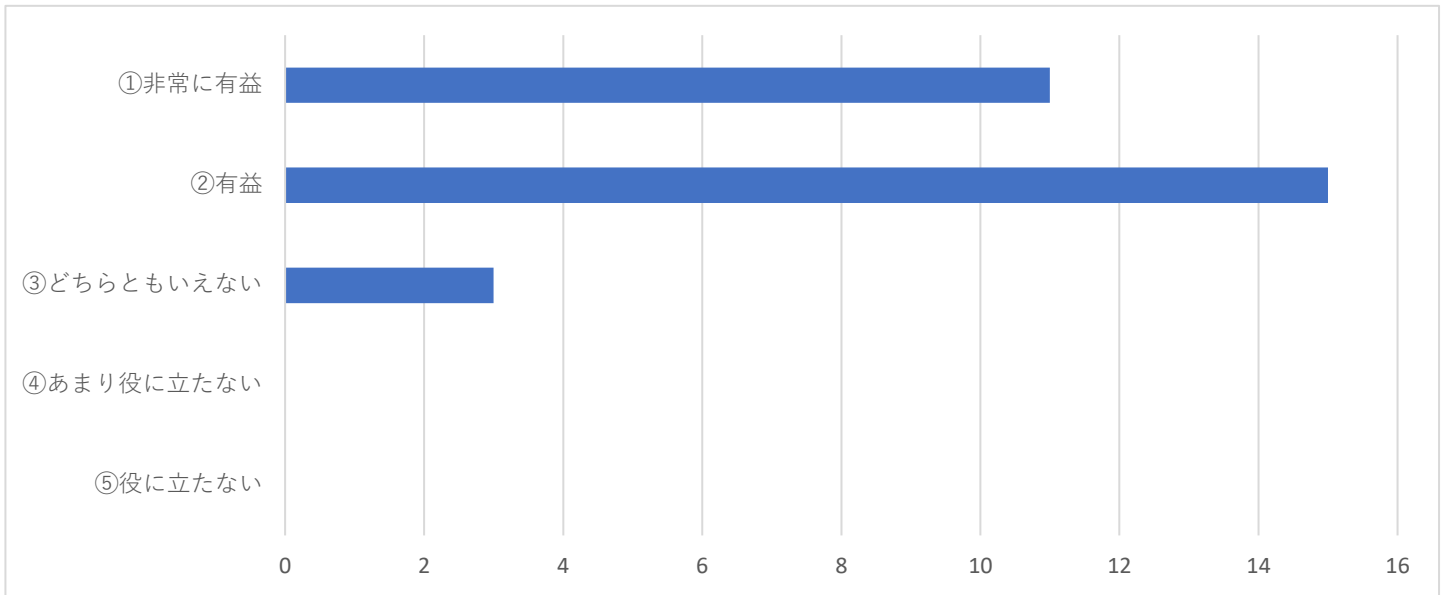
１.講演はいかがでしたか。



２.設問１の回答について、よろしければ、その理由を具体的にお書きください。

・一人ひとりが発酵しなから　利他で　みんなで　ということに共感できたから
・被災した過疎地域の復興に関心を寄せつつも具体的なイメージを持てずにいましたが、発酵や創造的人間関係による復興実装への取り組みを知る機会になりました。
・報道や個人メディアなどでは悲惨な話が多い中、明るい未来へのお話を頂戴できました。
・講師が体験した被災の状況は伝わった。全体として、講師の話の語尾が今一つはっきりしておらず、言いたいことが分からない傾向があったように思う。それが原因で後半は集中して話を聞く気持ちが削がれてしまった。話す内容が練られていない感を個人的に感じた。
・「利己的な利他主義であれ」も「創造的人間後無しは何かをいま問うこと」も、現状においてあまりに浮世離れしたテーマであり、むしろ現場と学問・都市遊民との距離感を感じさせる。
・スマートコンパクトシティについての質問において、澤先生のお答えがとても「ふ」に落ちました！
・一般人としては、あまり専門的な内容ではなく経験、事実、実体験に基づいていて、とても分かりやすかった。
・具体的な例(長期に渡る活動を通した)から聴く人に問いかける形の講演でした。
・奥能登の実態や、今後の産業を知ることが出来た。
・奥能登の現状が再認識できた
・人間復興とは何なのか、端的には分からなかったが、色々な情報は興味深かった。自分で、創造的人間復興とは？と考えていくべきかと思いました。
・若い人に対する熱い想いを感じられたから
・知らないことばかりだったので、知ることができて良かったからです。
・私も実際に地元である能登で被災し、人口の減少が加速するのではと不安を抱いていましたが、まずは人間の基礎的な営みを回復させ、その後、今回学んだような創造的な営みの復興で再び能登に活気が戻るように自分でできることを考えたいと思いました。
・地元で被災し、地元に住んでおられる方の時間的経過とともに変化していく有り様を、地元の方の声を通じて知りたかったからです。
・私は大学でボランティア論やボランティア実践という科目を担当している教員ですが、同時に専門が商法・会社法（中小・零細企業の事業承継や会社責任など）です。そのため、澤先生のご講義のうち、前半については災害ボランティアに関する情報として感慨深く、後半での地域の企業の活動や概要のご紹介については、地方創生やこれからの珠洲市の復興などを担うための地域経済に関するものであり、いずれも興味深く拝聴しました。私も専門外の者で、しかも熊本が地元でもないのですが地域の活性化ということを考えます。澤先生に直接お会いしてお話を伺いたいと思いました。
・珠洲市に住む方が、地方創生のためにどのような取り組みをしているか、それによる良い影響を知ることができた。自分にできることはなんだろうと考える機会になった。

３.被災地の現状を知るため又は復興のために役立つものでしたか。



<u>アンケートからの質問・ご意見</u>

・質問・応答ともに　真摯で自分事として受けとめやすかったから
・能登のまちづくりに対して、どのような展開をしていくのか、対話をしていくのか、考えを共有できた。
・質問者のレベルも高く、先生の回答も十分であった。
・問いをいただくことは、うれしいことです。
・半年が経ち支援者で溢れていた能登でしたが、人は去り静かになっています。数は力であり、復興には大小問わず人が人を助け合う力が必要です。未来のために、人が訪れる為に何を行えばよいか。非常に重要なテーマだと考えています。
・学生たちが今回の震災について若い世代の視点・立場からの積極的な意見交換できる場があるとよいと思います。
・澤先生の今後も継続した地元のレポートを、またいつかお聞きしたいです。
・被災者のメンタルヘルスについて。震災から半年経ったが、まだ心に傷をおっている人はいると思うし、本人でさえどう向き合えばいいか分からないこともあると思うから。
・リアル参加ではなかったのですが、公演終了後の参加者間でのディスカッションの場を設けて頂けるとありがたかったです。教育関係でない私のような一般参加が、大学の先生方と触れ合える機会は普段無い為今後の貴重な資産になると考えます。ZOOMにおいても可能であると思いますので検討願います。
・質疑応答の一番最後に話された先生が、「あなたにとって創造的人間復興とは何ですか？あなたはこれから何に取り組みますか？という問いかけをいただいたように思う」という趣旨の発言を聞いて、なるほどと思った。私自身、「創造的人間復興は〇〇です」という結論が聞けるものと思って講演を聴いていたが、そのような臨み方自身が適さない事象がこの震災（これまでの数々の震災含め）なのだと気づかされた。ありがとうございました。
・能登のほうの、当時どういう状況だったのか、興味深い内容でした。自然現象という避けられない大きなものに遭遇したとき、人と人が支え合うことの大切さを実感するのだと思いました。当事者とできる限り近い立場になるということも復興につながる活動になるのだと気づくことができました。
・澤先生へ大学時代に学生として「西洋経済史」の授業を受けていた頃を思い出しながら、ご講演を拝聴いたしておりました。口調も声量も変わらず、お若いなぁと感慨深かったです。珠洲に多くの知人がおり、これまでもずっとどのようにお声をかければ良いか、いまだに悩んでいます。これからも機会がありましたら、このような講演会で能登のありのままの状況や、みなさんの暮らしをご教示いただきたいです。ありがとうございました。
・私はオンデマンド参加ですので、質問できないのは仕方ないかなと思いつつ、せっかくの機会なので、オンライン参加者にも質問する機会は用意されていればよかったのではないか（チャットなどを利用しての質問が可能であれば）と思いました。もしも準備はされていたけれど利用がなかたっといういことであればお許しください。
・自分も看護学生なので、質疑応答で看護学生の方が医療者へ向けたメッセージを聞いてくれて良かった。